

湘南学園だより



発行：湘南学園だより編集部



CONTENTS

対話を大切に、つながり続ける
カラフルな学園 ～湘南学園の未来を考える～
学園と共に歩もう！
あたたかさ溢れる学園を後世へ繋ぐために
笑顔のつながり ～Face to Face～ 2024
食育ラボより
おいも会議 ～おいもパーティーに向けて～
今年度の小学校実践から

中高のユネスコスクール加盟を振り返って
全学教研2024
2024年度「松ぼっくり基金」のご報告

学校法人からのご報告

理事長	岩 武 学	2
学園長	住 田 昌 治	3
同窓会会長	山 口 英 昭	4
後援会会長	近 藤 え り 子	4
P T A 会長	江利川ちひろ	5
特定非営利活動法人湘南食育ラボ 理事長	原 田 ゆ う 子	6
幼稚園年中組担任	中 沢 祐 子	7
小学校教諭	星 野 嘉 住	8
小学校教諭	寺 田 友	
中学校高等学校校長	伊 藤 眞 哉	9
小学校五年生担任	中 許 竜 宏	10
理事長	岩 武 学	11
学園長	住 田 昌 治	12



対話を大切に、 つながり続ける

理事長 岩 武 学

皆様、今年度も湘南学園をご支援いただきありがとうございます。

ご卒業・ご卒業の皆様、おめでとうございます。

湘南学園は昨年度90周年の節目を迎え、今年度は100周年に向けた新たな一歩を踏み出す1年となりました。「つながり続ける」ことを大切に、いろいろな方々との対話を通じてたくさん学ばせていただいた1年でもありました。

● 急激な変化・やりなおし ができない社会

近年の社会情勢を見ていると、二つのことが浮かんできます。一つは「社会の急激な変化」です。SNSを中心とした個人の発信、そのことに起因する炎上・責任の追及は年々過激化しているように感じます。また、AIの実用化によってさらなる変化が予想されています。大人よりも子どもたちの方がそれらを使いこなして、逆に大人が教わったりする場面が多いのではないのでしょうか。一方でネットリテラシーの未熟さから子どもたちが犯罪やトラブルに巻き込まれるケースも多く見られます。親が全く関知しないところで、不特定多数の

人とながれてしまう、つながってしまうことは、親世代の時代と大きく異なります。「SNSとかAIとかよくわからない今、私たち大人がどう対応すべきなのかが問われていると思います。」

もう一つは「やりなおしができない社会」です。SNSなどで一度でも不適切な発言や画像・動画を発信してしまうと、瞬く間に拡散・炎上し、二度と立ち直れなくなるのではないかと思われるほど叩かれ、しかもその発信はデジタルタワーとして永久に残る



てしまいます。私たち大人は「失敗してもいいからチャレンジしよう」とよく言っていますが、とても失敗できる社会とは思えないのが今であり、子どもたちはそのプレッシャーにさらされ続けているのではないのでしょうか。それらが子どもへの不登校約30万人、子どもの自殺500人以上（2024年は過去最多）というとても悲しい事態に関係していると思えてなりません。「やりなおし」は誰にとっても安心できる言葉だと思えます。やりなおしができる社会をつくるために私たち大人ができることは何なのか？それを問い続けて行きたいと思えます。皆様と対話を通して一緒に考える機会をいただければありがたい存じます。

● 100周年に向けて

100周年に向けて新たな一歩を踏み出した湘南学園ですが、避けて通れないのが少子化です。湘南学園に入園・入学が想定される近隣市町村の人口推移（出生数に転入・転出を含む）を調べたところ、2011年生（現中1）の子どもの人口を100%としたとき、2021年生（現年少）は78.2%（21.8%減）とわずかに10年で大きく減少しています。単純計算ではありますが、10年前の定員を維持するには約1.3倍の努力が必要になるといふこととなります。2021年に生まれた子どもたちが中学を受験するのが、100周年の年度



なのです。私学として少子化の中で生き残っていくためには先手を打っていく必要があります。決して後手に回ってはいけません。経営のスペシャリストがいるわけではない湘南学園ですが、PとTの共同経営を強みとして、他にはない施策を打ち出しているチャンスだと考えています。立場の違いこそありますが、湘南学園の子どもたちの幸せを願う同じ志を持った同志として、今こそ力を合わせるときだと思っています。それには対話を通してお互いを知り、お互いを尊重する関係性の構築が必要だと考えています。先生方の想い、保護者の想いが重なり、相乗効果として発揮されるよう、たくさんの方々と対話を重ねていきたいと思えます。

● 全学ユネスコスクール加盟

住田学園長の基、進められた幼稚園・小学校のユネスコスクール加盟が正式に認められ、すでに加盟している中高を併せ、日本初の総合学園としての全学ユネスコスクール加盟を実現することができました。ご尽力いただきました皆様に改めて感謝を申し上げます。

ここからが本番です。加盟することが目的ではなく、ユネスコスクール加盟校として何をしていくかが問われる次年度になると考えています。ユネスコスクールの理念「基本的人権、人間の尊厳、ジェンダー平等、社会的進歩、自由、公正、民主主義、多様性の尊重、国際的な連携などを推進すること」と湘南学園の学びの融合がそれらの実現につながっていくと考えています。

● 最後に

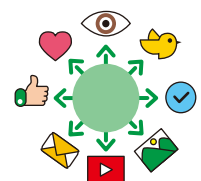
改めまして、今年度も大変お世話になりました。予測困難な時代ではありますが、そんなときこそ私たち大人が楽しく、希望を持って日々を過ごすことが大切だと思います。湘南学園は一人ひとりがつくる学校です。PとTが立場を超えて協働し、皆様と一緒にいろいろなことにチャレンジしていくきたいと思います。次年度も湘南学園をよろしく願っています。



カラフルな学園 湘南学園の未来を考える

学園長 住田 昌治

現在は多様性の時代、学校も教育も多様化し、その後の生き方も多様でマルチステージの時代に入っています。みんなと同じ学び方でもなく、みんなと同じ働き方でもなく、いつから、どこで、どのような学び方、働き方をするのか、選択肢も多様となり、人と比べたり、決めつけられたりすることなく、自分で選ぶことができる時代になってきました。小さい頃から、子どもが当事者として選ぶ経験、決める経験を学校でも家庭でもあらゆる機会で行ける必要があります。また、子どもが安心して自分を表現できる環境を整えることも重要です。



SNSが大きな変化を起し、グローバル化は益々進み、目に見えないところ

※サステナビリティ

サステナビリティは、私たちの未来を守るための重要な概念です。持続可能な開発目標（SDGs）を達成するために積極的に取り組む必要があります。湘南学園はユネスコスクールとしてESDに取り組んでいますが、そのESDはSDGs達成の鍵だと言われています。SDGs達成のための教育であるESDは、益々重要になっていきます。全学ユネスコスクールの湘南学園は湘南地区のESD推進拠点としての役割を担うこととなります。

湘南学園におけるサステナビリティは、持続可能な社会創りのリーダー、グローバル市民を育成するために非常に重要です。持続可能な生活習慣を身につけるための教育プログラム、学校全体で環境に配慮した取り組みを推進、環境教育と持続可能な実践を組み合わせたプログラム、学園のキャンパスをより環境に優しいものにするために、エネルギー効率の高い設備の導入、自然との触れ合いプログラム、

地元の環境保護団体や企業と連携し、サステナビリティを推進するプロジェクト等によって、学園生は実際の社会問題に取り組む経験を積んでいます。そして、食育において、地元産の有機食材を使用、食品ロスを減らす取り組み、湘南の食について考える「サステナトレセン」プロジェクト等、環境への負荷を軽減することにも力を入れました。これらの取り組みを通じて、学園生は持続可能な未来を築くための知識とスキルを身につけていきます。



※ダイバーシティ

ダイバーシティは、社会の豊かさを象徴するものです。異なる背景や価値観を持つ人々が共に働き、学び、生活することで、新しいアイデアや視点が生まれ、包括的な社会創りを促進します。



湘南学園では、ダイバーシティを学園生が異なる背景や価値観を尊重し、共に学び成長するために大切にしています。

異なる文化や歴史について学ぶ機会を提供することで、異文化理解を深めています。すべての学園生が平等に学べるよう、カリキュラムの多様化など、学園生が学びやすい環境を整えることにも力を入れています。

また、多様なロールモデルを紹介することで、学園でのESDを通じた日々の学びが成功を導く姿を示し、学園生が自分自身の可能性を広げることができるようになっています。

すべての学園生が安心して学べる環境を提供するために、学園生及び教職員・保護者・関係者が互いに尊重し合い、協力することを奨励します。これらの取り組みを通じて、学園生が多様性の重要性を学び、包括的な社会を築くためのスキルを身につけるようになっています。

※ウェルビーイング

ウェルビーイングは、身体的な健康だけでなく、精神的・社会的な健康も重要です。ストレス管理、適度な運動、バランスの取れた食事、良好な人間関係など、ウェルビーイングを向上させるための方法は多岐にわたります。

湘南学園におけるウェルビーイングは、学園生が健康で幸福な生活を送るために非常に

重要です。学園生がストレスや不安を感じたときに相談できる仕組みを整え、定期的なアンケートや観察、面談などを通じて、心の健康をサポートします。

学園生が互いに支え合い、協力する環境を作るために、チームビルディングやグループプロジェクト



を実施しています。快適で安全な学習環境を提供するために、教室の設備や校舎のメンテナンスを行います。そして、何よりも、学園生の声に耳を傾け、学園生の意見や要望を積極的に取り入れ、学園生が自分たちの学園生活に対して主体的に関わることができるようにします。これらの取り組みを通じて、学園生のウェルビーイングを向上させ、健康で幸福な生活を送るための基盤をつくっていきます。

学園生が、個性豊かに、自分らしく、得意な事、好きな事を最大限生かして、自分を主語として、自分の目標を実現していくような生き方の基礎をつくるカラフルな学園づくりを進めていきたいと考えています。



学園と共に歩もう！

100years

同窓会会長 山口 英 昭

創立91周年も無事に乗り越えましたが、この数年中学高校時代を過ごされた学園生にとっては、コロナ禍にみまわれ学園生活や学業に支障をきたした方も多数おられたかと思います。

今の平穏な日々が如何に有り難い事か身に染みて感じて欲しいと思います。

当たり前に勉強し、遊び、スポーツをしていた平穏が不可能になった時に限って急に勉強をしなくなった学友と遊びたくなったのではないのでしょうか！世界的に見ると戦乱や疫病・災害にみまわれている方々がいる中で、学園で学べる幸せを感じて頂きたいと思います。

今こそ湘南学園の【建学の精神】に盛り込まれている「個性豊かにして身体健全・気品高く・社会の進歩に貢献できる明朗有為な実力のある人間の育成」と云う内容を実践する機会だと思っています。

この幸せを湘南学園創立100年に向けて繋げていく努力を同窓会は支援していきたいと思います。

*

同窓会では学園と同窓生の絆を深めるために、卒業してクラス会を開催するグループにお祝いの紅白ワインを贈呈する活動をしています。

その席上に理事長と同窓会会長か副会長が伺い、皆さんが知っていたら嬉しい学園情報や湘南学園の現状を報告しつつ、知人・友人に湘南学園に入学して戴きたい旨をお願いしております。

同窓会はSEASIDEを発行し、「20歳の集い」の集合写真や同窓生の活躍や経営しているお店の紹介などを手掛けております。

同窓会ホームページでも同様の内容と学年幹事より投稿されたクラス会開催の報告を掲載しております。

「20歳の集い」では同窓会からお祝いのお花やフルーツ盛合せを提供し、同窓生の経営する孔文社さんの協力により、記念の集合写真やスナップ写真を撮って頂き、生徒会総務委員や後援会と共に同窓生の20歳のお祝いを毎年行っております。

また学園内では、理事会・PTA・先生方・後援会・同窓会が隔たりなく意見交換をする『交流会』を開催しております。

*

交流会では『20歳の集い』『学園祭』『PTAフェスティバル』等の学園催事の協力体制なども話し合い、後押ししております。

これらの行動が学園のESDに貢献していける事を願っております。

学園は、ユネスコスクール加盟を目指している幼稚園・小学校である事をもつと学外に宣伝していく努力が必要だと思っています。

今、叫ばれている教育無償化は私学にとって高いハードルだと思います。皆様、今年も学園と共に歩んで参りましょう。

あたたかさ溢れる学園を後世へ繋ぐために

後援会設立・趣意

日頃より、あたたかいご支援・ご協力を賜り、湘南学園後援会を支えて頂きまして、ありがとうございます。心より感謝申し上げます。

皆さまのお陰で、後援会は2024年11月をもちまして、設立15周年を迎えることができました。

学園創立75周年の折、当時の理事会からの依頼を受け、学園を離れても尚、学園を愛し、子どもたちをサポートする応援団として設立されました。当初より、学園・子どもたちの為という考えを基盤に、建学の精神に則り、学園を側面から支援し、学園力を高めていく為に協力をする。学園の歴史に連続性をもたせ、今後の発展に貢献する。この趣意と共に、初代富田会長・田辺前会長をはじめ、多大なるご尽力を頂きました諸先輩方のあたたかい愛と想いを繋いでいきたいと思っております。

後援会活動

後援会は、様々な事業、PTAフェスティバルへの参加（売り上げを子どもたちの為に有効活用できる寄付をする）、中高主催のハートグローバル（旧ヤングアメリカンズ）への寄付及び協力など、学園生の学びやチャレンジのサポートをさせて頂いております。

後援会会長 近藤 えり子

近年、成人を祝う会は、既にサポートして頂いておりました同窓会・ラボと共に、理事会・PTAにもご協力頂き、後援会も含め、学園全体の行事となりました。このあたたかいサポートこそ、学園らしさだと感じております。

また、今年の成人を祝う会には、学園を卒業して3年・6年経つ卒業生が、先輩たちの為に事前準備から会場周辺のパトロール・片付けまでお手伝いをしてくれました。この優しい心に、成人を迎えた卒業生だけでなく、会場にいた皆があたたかい心になり、笑顔で溢れました。こんな素敵な学園に今も尚、携わることができ、とても幸せに思います。

今後とも皆さまのあたたかい愛と沢山の笑顔で、ご支援・ご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。

卒業される皆さん

成人を祝う会で、お会いしましょう。



笑顔のつながり

FACE to FACE 2024

PTA会長 江利川 ちひろ

湘南学園PTAは、10月27日（日）に「第2回PTAフェスティバル」を開催いたしました。当日は約2千名の方がご来校くださり、湘南学園の大きなイベントのひとつとして認知していただけたように思います。

この日のために、PTA役員会とPTAフェスティバル委員会は6月から検討をはじめ、「スタッフも楽しむイベント」をモットーに準備を進めてまいりました。湘南学園の保護者や先生方はさまざまな才能をお持ちの方が多く、今年度も新しい企画や素敵な装飾がたくさん生まれました。

当日は、幼稚園のお子さまがご家族と一緒にプラレールを楽しんでいたりと、理事長企画の「モデルロケットワークショップ」の打ち上げ時には、参加したお子さまと通りがかった方々が大グラウンドで一緒に盛り

上がったたり、小学校では、5年生を中心に先生と児童が新鮮な野菜やエコ石鹸を販売するブースを出店したり、理科の高橋先生の「ポップコーンワークショップ」では卒業生ボランティアが参加してくれたり、中高の吹奏楽部がファンファーレの演奏をしてくれたり、中高生プロジェクトの発表があったりと、学園のさまざまな場所であくさんの笑顔



「世界の料理」など、チーム湘南学園の皆さまがご尽力くださり、大盛況のうちに終了いたしました。救護室の利用がゼロだったことも、主催者として安堵いたしました。関係者すべてに感謝申し上げます。次年度以降もこのつながりが続くことを願い、PTA役員会一同、ブラッシュアップを進めてまいります。



に触れることができ、大変嬉しく思いました。また、わくわくチケットの抽選会では、学園長と中高の佐伯教頭が盛り上げてくださったおかげで中高ホールに入りきらない程のお客様にお越しいただき、結果として昨年同様に各パートに収益の分配金を収めることができました。この分配金は、今後、幼稚園から高校までのすべてのお子さまのために使用される予定です。そして、いつもPTAを支えてくださる同窓会の「寄付品フリーマーケット」や後援会の「えんにち」やNPO法人湘南食育ラボの

さて。湘南学園PTAにはサークル活動があることをご存じでしょうか？現在は茶道サークル「湘友会」、ブックサークル「パインナッツカフェ」、PTA支援サークル「サポーターズクラブ」の3つが活動いたしております。湘友会は月に1〜2回程度、小学校で茶道のお稽古を行い、PTAフェスティバルでのお茶席をはじめ、湘南学園の外でも活動しています。パインナッツカフェは、母の文庫の本の貸し出し準備を進めたり、外部講師を招いたワークショップの企画・運営などを行っています。湘友会のお茶席も母の文庫も、長年保護者に親しまれてきた大切な場所です。伝統を受け継ぎながら現代のニーズに合う形にしていくこともPTA役員会に託された重要なミッションだと考えております。

そして、PTA支援サークル「サポーターズクラブ」は、今年度はPTA役員会とのコラボレーション企画を複数開催したため、多くの方にご尽力いただきました。8月には、2019年以来休止していた「きもだめし」を小学校で行いました。幼稚園や小学校のご家族約200組の参加があり、小学校から高校まで複数の児童生徒がおぼけ役と



なり協力してくれました。夕刻の薄暗い小学校の廊下は、大人でも怖いものです。泣いてしまうお子さまもいらつしやいましたが、参加された方には、地下の小ホールからエレベーターに乗ってスタートするというアトラクション感覚も合わせて楽しんでいただけたようです。

また、10月のPTAフェスティバルでは、大好評の焼きそばを販売いたしました。炭火の薫りに行列ができて、準備した800食が完売いたしました。そして12月には、サポーターズクラブ対先生で行う「ソフトボール大会」を5年ぶりに開催し、先生チームが勝利いたしました。

サポーターズクラブは、学園の整備やテントの設置などの力仕事も引き受けてくださり、湘南学園にとって欠かせない存在です。各サークルは随時会員を募集いたしております。新たなつながりにぜひご参加いただけると幸いです。

現在、湘南学園PTA役員会では、持続可能なPTA活動を目指しさまざまな改革を進めております。先生と保護者という枠を超え、ひとつのチームとして活動することが、湘南学園PTAの魅力であり存在意義なのだと思いたしております。今後とも宜しく願い申し上げます。





食育ラボより

特定非営利活動法人湘南食育ラボ

理事長 原

田 ゆう子 

🍴開業12年目を迎えて

おかげさまで湘南食育ラボも今年で12年目を迎えます。

日々、子どもたちへ食の安全安心と地産地消、そして食育活動を推進しています。

今年度は、コロナ禍がようやくあけ、やっと通常の活動ができるようになりました。

🍴『有機野菜の日』

そんな中で、12月8日には「有機野菜の日」にちなみ、地域の有機野菜農家である白土さん、相原さんのご協力を得て、農業と食の未来について考える取り組みを実施いたしました。このイベントは、有機野菜の魅力を再発見し、食に対する意識を深める貴重な機会となりました。

小学生にはスクールランチやカフェランチに『大根のドライカレー』、小松菜と人參の塩昆布和え、ブロッコリーのおかか和え、中学生には出食に『バーベキューチキン（有機のレタスとブロッコリー添え）』、大根とツナの和風庵、小松菜の味噌汁』を提供しました。



大根の風味とスパイスが
相性バツグンのドライカレー



ご協力いただきました白土さん(右)と相原さん(左)
ありがとうございました！



単に有機野菜を食べるだけでなく、食を通して地域全体でつながり、未来の食を考えるきっかけ作りとなりました。

🍴感謝の気持ちを込めて

今回、湘南食育ラボの10余年間の道のり、そしてこれから叶えたい未来について改めて考えてみました。

今回のイベントを契機に、今後子どもたちと農家をつなぐ活動、子どもたちに食の大切さを伝える活動を積極的に行っていきます。



体が喜ぶ有機野菜がたっぷりのランチができあがりました
元気になること間違いなし！

🍴未来の湘南食育ラボへ

更に10年後の湘南食育ラボをどのような位置づけていくか目標を掲げ、そして、湘南食育ラボの活動をより多くのひとに知ってもらうために、これまでのイベントを凝縮したもの・食育を肌で感じるイベント等を企画していきたいと思っています。

この10年間で地域に根差し、多くの方々に食の大切さを伝える活動をしてきました。そのなかで、様々な喜びや学び、課題がありました。これまでの活動を振り返り、これからの活動に繋げていくためには、共に活動をしてきたスタッフ、私たちを応援、協力していただいている方々に感謝の気持ちを忘れずに今後の活動の方向性を共有していくことも忘れてはいけません。

★私たちの今後の課題は、

この活動をこれからも次世代へ

繋げていくことです★

おいも会議

おいもパーティーに向けて

幼稚園年中組担任 中 沢 祐 子



五月、年長組が畑にさつまいもを苗を植えてくれました。学園の保護者の方のお力添えがあり、大切に育てていただいたさつまいも。十月のお芋ほりは子どもたちがとても楽しみにしている行事の一つです。

いもほりの帰りのバスの中では、早速さつまいもをどのように食べたいかの話が出ていました。「お母さんに大学芋を作ってもらいたいな」「焼き芋がおいしいよ」など……。そんな中「せつかくみんなで掘ったし、幼稚園でも食べたいね」「おいもパーティーしたいね」という話題になったので、園に戻りお家に持って帰る分の他に、幼稚園でみんな食べる分のさつまいもを数本とっておくことにしました。

数日後、とっておいたさつまいもがそろそろ甘くなる頃：ここからが『おいも会議』の始まりです。

まずは、みんながおいもパーティーをやりたい気持ちがあるかの確認をしました。全員の手が挙がると思いきや、二人の子が「やりたくない」と……。やる気満々だった子たちは、まさかの反応に少々驚いた様子でした。理由を尋ねると、Aちゃんは「作ることをやったことがないから：」Bちゃんは「さつまいもが苦手だから：」そんな意見を聞いて、保育者は「さあどうする？」と子どもたちに投げかけると、そこからは子どもたちは口々に説得を始めました。「見ているだけでもいいよ。それでできそうだったらやってみたら？」Aちゃんはそれで納得の様子。「ほんの少しだけ食べるだけでもいいよ」Bちゃんはそれでも首を振り、まだまだ気持ちは変わらないう様子でした。翌日も話し合いの続きは行われました。さつまいもが苦手なBちゃんに対してどんな言葉をかければおいもパーティーをやりたい気持ちに動くのか：それぞれが考えた後、一人の子が「Bちゃんお料理するのは好き？作るだけでもいいからやってみない？」と掛けた言葉がBちゃんの心に届いたようで、まずはおいもパーティーをみんなでやる、

という事が決まりました。今度はいよいよメニュー決めです。子どもたちには約束事として①自分たちで作れるものにする②みんなで作る一つのメニューを決めることを伝えました。話し合いを『おいも会議』と呼ぶ事で、ちよつぱり大人になった気分になるためか、どの子も真剣な表情で話をしたり、子どもたちの方から「今日は会議やらなんの？」という言葉も出てくるほどでした。



子どもたちが食べたいメニューの中には、スイートポテトやいもようかん、やきいも、ほしほいも、おいもチップスなどいろいろなものが出てきました。果たして一つに決まるのだらうか：そんな事が私の頭の中を過つたりもしました。最初のうちはお友だちに「つられて食べたいものを変更したり、翌日になると食べたものが変更したりしていく

うちに、スイートポテトとおいもチップスの二つに絞られていきました。それぞれのおいしさをアピールしたり、「食べたことがないから食べてみたい」などの言葉も出てきました。それでもなかなかどちらか一つには決まらず、二週間ほど話し合いが続いたある日、おいもが苦手と言っていたBちゃんが「おいもチップスなら食べられるかも」と言った一言で話し合いが動きました。

「スイートポテトが良かったけど、おいもチップスに変えます」と言った子が一人。「なんでそう思ったの？」と尋ねると「だってみんなで食べたもん。Bちゃんがおいもチップスなら食べられるって言ったから」その意見を聞いたスイートポテト側の子たちが次々とおいもチップスに変更していきました。そしてその日の会議の中で三十人全員がおいもチップスに手を挙げる事になりました。みんなが話し合つてようやく決まったメニューに、子どもたちも声を

出して喜び合いました。数日後、自分たちでスライしたさつまいもを焼いて、おいもパーティーを行いました。『みんなで決めたおいもチップス』は何よりもおいしく、子どもたちの心に残ったことでしょう。



今回のおいも会議を通して、お互いを尊重し合い、少しずつ歩み寄ること。それを保育者が伝えるのではなく、子どもたち自らの力でできたこと。友だちの姿をみて自分もそうしたいと思ったことが何よりうれしく、日々の生活の積み重ねによるものだと思えて感ずることができました。自分たちで話し合い、一つの事を決めたり、自ら行動をする。このような幼児期の体験の積み重ねが、今後成長していく上での大きな力となるでしょう。





今年度の小学校実践から

小学校教諭 星野嘉住
寺田 友住

小学校がユネスコスクール
のキャンディード校となっ
て2年目を迎えます。

この間の小学校の実践から、
今年度の4年生と6年生の活
動を紹介します。

4年「森を守る本物体験」

「水源林を求めて」

4年生のクラス名「せせら
ぎ・やくも・しずく」は、こ
の地球で欠かす事のできない
「水循環」から生まれました。

4年生の総合のテーマも「水」。
3年生で学んだ「海」をきつ
かけに、引地川河口見学から
学びが始まりました。海と川
の境目を目の当たりにし、生
態系や環境問題について考え
る機会となりました。海から
川へと移っていく学びの中で
むかえた「山の学校」では、
富士山ネイチャークラブの方々
と3日間過ごす中で、富士山
五合目の自然散策や樹海探究
学習、三湖台ハイキング、陣
馬の滝での生き物観察などか
ら、山・川・水、そして自然
の素晴らしさを五感で感じと
り学んできました。

小学校教諭 星野嘉住
寺田 友住

にも参加しました。

「森の学校」では、山北町
森林組合の方々から「森は放
つておくと木と木の間にすき
まがなくなってしまう事」、「木
々に太陽の光がちゃんと当た
らなくなるため、余分な木は
伐ったり手入れをして森を守
る事が大切である」という話
を聞き、豊かな森と、そうで
はない森の演示実験装置を通
じて森を育む林業の重要性に
ついて学びました。

その後、森に入って、グルー
プごとに範囲を決めて植えら
れた木の本数や状態を調査し
て、適正な本数や間伐すべき
木はどれかを話し合いました。
森の中で一生懸命に木の健康
診断をする子どもたちの姿が
見られました。チェーンソー
で間伐する木を切る様子を間
近で見る体験で見た、20m程
の木がゆっくりと倒れていく
光景は圧巻でした。

午後は、間伐材のこ引き体
験を行いました。太い間伐材
をのこぎりで切るのに苦戦す
る中、切れた瞬間には「やっ
たあ!」「厚く切れて嬉しい!」
といった歓声があがり、充実
した体験となりました。

「のこぎりで切った木は太
くてかたかったけれど、すご

くいいにおいがした。」

「スタッフの方がチェン
ソーのエンジンをかけて、木
を切り始めたら、だんだん木
がかたむいてきてメキメキと
いう音をたてながらたおれ、
地面がバンとゆれました。ぼ
くはそんなに木が重いのと思っ
ていなかったもので、びっくり
しました。」



自然が作り
上げているダ
ムでの体験学
習を通して、
未来を創り上げる担い手とし
てこれからも多くの学びを築
き上げていくと欲しいと願っ
ています。

6年「服のチカラ」

「スロジエクト」

6年生の道徳教材に難民問
題や支援があります。今年度
は、児童主体の取り組みにし
ていきたいと考え、ユニクロ・
GUが行っている「届けよう、
服のチカラ」プロジェクトに
参加しました。着なくなった
子ども服を回収し、服を必要
としている難民に届けるリサ
イクル活動です。

今回、回収の声かけをする
際に、服を集める目的を常に
意識するように配慮しました。
何のために集めるのかという
はじめの気持ちに立ち返るこ
とによって、服の回収自体が
目的になつてしまわないよう
にするためです。具体的には、



では気づきに
くい部分をし
っかりフォロ
ーしていまし
た。幼稚園に
も回収箱を設
置しました。
設置する際に

「みんなで、協力して世界の
問題を解決しよう」という目標
を掲げ、①幼稚園・小学校・中
学校でもできること②家庭・
地域・学校でもできることを
中心に話し合いをしました。

授業では、どうしたら服が集
まるのか、ポスターには何を
書けば良いのかなど、グルー
プで話し合い意見を形にしま
した。「市役所に話をする」
「地域の人たちに協力しても
らいポスターを貼らせてもら
う」など様々な意見が出まし
た。面白かったのは、自分た
ちでいいながら「先生が声
を出して回収する」という意
見がでた点です。大人も巻き
込んで活動をするという考え
はとても現実的で効果がある
なと感じました。

服の回収箱も手作りです。
子どもたちが一番意識したの
が低学年の目線です。回収箱
に高さがあると上から見ると
とが難しくなり、服を箱に入
れる低学年が不安になります。
そこで、服を上から入れるの
ではなく横から入れる形にし
ました。ポスターにも振り仮名
や絵をたくさんいれたり、大人

は、園児にも分かるようにお
話をしに行きました。幼稚園
の保護者の方々が迎えの際
にご協力くださったので予想
を超える枚数の洋服・ベビー
服が集まりました。



集めた服を
郵送する作業
も全員で取り
組むたいと考
え、GUの方に「服のたたみ
かた」の特別授業をしていた
だきました。今の子どもたち
は、クローゼット収納などで、
服をたたむ機会も少なくなっ
ています。たたみ方がわから
ない児童のための企画でした
が、実際に体験すると「自分
がたたんだ服を難民の人たち
が着ると思うとうれしくなっ
た」という感想が出てきまし
た。たたむことによって、そ
の先の世界をより鮮明に想像
ができるようになりました。
そして、服を出していない児
童も、服をたたむことで当事
者意識を持つこととなり、結
果全員が主体的に参加するこ
とができました。

今回は、最終的に段ボール
9箱、800枚以上の洋服を
回収し難民支援に送ることが
できました。感謝と共に、子
どもたちの取り
組みがその後の
考えや生き方へ
とつながってい
くことを期待し
ています。





中高のユネスコスクール加盟を 振り返って

中学校高等学校校長 伊藤 眞哉

MDGsの時代から

中高がユネスコスクールに正式に加盟したのは2013年の12月のことでした。当時はまだ「持続可能な開発目標（SDGs）」が採択される前の段階であり、それに先立つ形で国連によって提起された「ミレニアム開発目標（MDGs）」を高校2年生の総合学習に取り入れたことが加盟に向けた契機になったと記憶しています。

MDGsを軸に総合学習を進めた理由は、世界的に解決すべき課題をいくつかのジャンルに分けた上で、さらに具体的なターゲットを細かく明示している点が、高校生にもわかりやすく、全体構造を把握するのに適しているのではないかと考えたためでした。しかし、そうした諸問題について考察を深めていく過程で、世界的な課題は途上国の現状だけに焦点を当てて考えようとしても限界があり、先進国の側も従来の方策を変えていく必要がある



2017年第3回ユネスコスクール神奈川県大会

2017年第3回ユネスコスクール神奈川県大会
こうした取り組みを経て、
中高の教育を改めて振り返った時、ESDの考え方や学園教育との親和性が実に高いということがわかりました。
中高が1990年度からスタートさせた特別教育活動（現在の総合学習）は、実社会で生きる大人の方々とのかかわりを通して、学年ごとに少しずつ視野を広げながら、社会と自分とのつながりについて実践的に考えていくプログラムになっていますが、こうした取り組みは社

こと。また、広い視点から地球全体や世界のあらゆるところに暮らしている人々のつながりについて考える体験には大きな意味があること。そして何よりも、これからの新しい社会を生み出していく若い世代の人たちに、教育をとおして持続可能な世界について考えていってもらふこと（ESD = Education for Sustainable Development）の大切さを実感したことが大きかったです。

学園教育との親和性

こうした取り組みを経て、
中高の教育を改めて振り返った時、ESDの考え方や学園教育との親和性が実に高いということがわかりました。
中高が1990年度からスタートさせた特別教育活動（現在の総合学習）は、実社会で生きる大人の方々とのかかわりを通して、学年ごとに少しずつ視野を広げながら、社会と自分とのつながりについて実践的に考えていくプログラムになっていますが、こうした取り組みは社



ポーランドの中高生たちの書道体験

つ実現していこうという目標を教員全体で確認して以降、ESDを学園中高の教育の柱に据えるとともに、ユネスコスクールへの具体的な加盟申請を始めた次第です。

平和のとりで

ユネスコ憲章の冒頭に「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」という一文があります。第2次世界大戦を引き起こしてしまった我々人類の愚かな行いへの反省から、世界中の人々の心の連帯を求めようとする精神は、まさに持続可能な社会の根底に流れていなければなりません。

しかし、いま世界では悲しい戦争が続いています。自分たちの論理を一方的に振りかざして、相手側を攻撃し命を奪う行いは、憎しみ以外に何も生み出しません。戦争は、地球における最大の環境破壊を招くとともに、我々人類にとつては最悪の人権侵害となる行為です。いつ自分が命を落とすことになるのかも分からないような世界で数十年前のことなど決して考えることはできないでしょう。



平和プロジェクト

このように考
えらと、ESDの根幹には平和を希求する願いがあります。日本にとつて戦後80年となる今年は、ユネスコ憲章の謳う「平和のとりで」について改めて考える大切な1年になると思います。私も中高の生徒の皆さんに、そのことの意味を語り続けていくつもりです。

総合学園として

昨年末に湘南学園幼稚園並びに湘南学園小学校もユネスコスクールへの正式加盟がなされる旨の通知を受けました。遊びを通して友だちとつながり、相手の気持ちや感じ方を受けとめようとする幼稚園の教育も、子どもたちの興味関心や問題意識を大切にしながら、実体験の積み重ねの中で気づきと理解を引き出そうとする小学校の教育も、社会と自分とのつながりを知り、その中でお互いに尊重し合うことの大切さを実感することができ、かけがえのない価値を持つていてると思えます。



全学教研

2024

小学校 中 許 竜 宏

《はじめに》

年明け早々に、大変嬉しい報告が届きました。ユネスコスクールのカンディデイト校であった湘南学園幼稚園と小学校ですが、正式にユネスコスクールとして登録手続きが始まったことです。加盟となると、幼稚園では神奈川県では初、全国で26園目。幼稚園から小学校、中高までの総合学園としては、全国初となります。ユネスコ憲章前文にある「心の中に平和のとりでを築く」ことを14年間でどう育てることができるのか？これからが総合学園として、重要な時期に入っていきます。

《全学教研の開催》

湘南学園では年一回、幼稚園、小学校、中学校高等学校の先生方で教育研究集会を行っています。今年で14年目になりました。2024年度の湘南学園「全学教研」は、「湘南学園の目指す『平和』ってどんな？」私達は未来に向けて、どんな教育ができるだろう？」をテーマに開催されました。



【実行委員】

実行委員長…中許 竜宏
学園長…住田 昌治
幼稚園…松山 みさき
小学校…富田 靖子
中許 竜宏
中高…清水 直哉
桃井 美有希
矢後 正子

【プログラム】

●基調報告…住田 昌治先生
●実践レポート
幼稚園…中川 貴義先生
小学校…中許 竜宏先生
前川 貴宏先生
中高…仙石 早由里先生
●レポート報告のまとめ…
聖心女子大学現代教養学部
教育学科教授 永田 佳之先生

●各パートごとに「平和教育」の実践について、グループディスカッション
①「平和教育」をさらに充実させるためにできること・やってみたい実践
②各パートレポートや、日頃の実践を参考に「湘南学園の木」をつくってみよう
教育実践やグループディスカッションでは、各パートの「平和」教育についての実践が共有されました。幼稚園では、遊びや生活を通して「ぶつかり合う」ことを大切にしていること。



子ども同士のやり取りやうまくいかないことを、集団の中で様々な体験を通して気づいていき、それが人としての土台となること。小学校では、体験

学習や日常のちよつとした出来事や関係性などを通して「人や「地域」と出会い、思いや価値観を学んでいくこと。また、人や国の関わりを見つめ、違いを認め、多様性を理解すること。そして、中高では「平和な社会をつくる主権者」として、戦争や平和について学びや体験を通じて、自己の考えを形成していくこと。このような幼稚園から中高までの実践を通じて、子どもたちは「社会を変える力」を育んでいくこと、です。

ユネスコ憲章の改定で、コンヴィヴィアル「共に(eco)n)生きる(vivial)こと」が重要視されたことを受け、建学の精神にも立ち返りながら、パートをこえて対話しあうことの価値が学園全体のものになってきたことを感じました。聖心女子大学の永田先生からも「半端ない傾聴力が先生方に身につけている。誠実に自然体で表現するから、生き生きとした対話が生まれる。さらに、人間だけではなく、自然や地球という他者の

声にも傾聴する学びにも挑戦しようとしている。まさにユネスコスクールに相応しい実践」と講評を頂きました。今回の「全学教研」では、人の心の中に「平和のとりで」を築くために、どんな教育が必要なのか、その観点や言葉で表現し「湘南学園の木」を創ることにもチャレンジしました。



根を張り、幹を作り、葉をつけ、その葉を食べた青虫がすくすくと成長し、蝶となって羽ばたいていくことをイメージ化しました。対話をしながら、付箋をつけていく先生方を見て、この繋がりこそが「平和」を創るそのものだと感じました。

《おわりに》

昨年度、90周年を終え、どんな時代でも、どんな社会になっても、学びを止めずに創

り上げてきました。子どもたちを取り巻く環境は急速に変化し、AIの進化や気候変動、貧困、紛争など地球規模の課題が深刻化しています。さらにアメリカの第一主義により、国際協調が揺らぎ、多くの課題に直面し、子ども達は、答えのない課題に取り組んでいかなくてはなりません。このような時代だからこそ、湘南学園は、ユネスコスクールとして、対話と共創、多様性の尊重を教育の中心として、持続可能な社会を創る重要性を感じています。それには、保護者の皆様、同窓会、後援会、湘南学園に関わるすべての方々との協力が必要です。子ども達は、どんな時代も思う存分、「今」を生きています。だからこそ、「今」の行動が未来に繋がっていくことを伝え、皆さんと対話しながら選択し、協働して100周年に向かいたいと思います。一緒に、チャレンジしながら、未来を創っていきましょう!!

幼稚園の子ども達に「平和」について聞くと『世界が安心して過ごせる・みんなが笑っている・事故がない、病気がない・自然がいっぱいある・地震が起らない・物があふれる』と返ってきました。これこそが、湘南学園の目指す「平和」ではないでしょうか。





2024年度 「松ぼっくり基金」のご報告

理事長 岩 武 学
学園長 住 田 昌 治

2019年10月に基金を創設して以来、現在まで大変多くの方からご寄付をいただいております。これまでにいただきました寄付金総額は、2024年12月末日現在で55,067,803円に達しました。心からお礼を申し上げます。

ご寄付をいただきました方々のご芳名を掲載させていただきます。また、ご寄付をいただいた方々の意向を踏まえ、幼稚園、小学校、中学校高等学校における活用の状況を一部のご紹介とさせていただきますがご報告申し上げます。

幼稚園

2025年度5月からの満3歳児保育たんぽぽクラス開設にあたり、園児用のロッカー3台とおままごと用の円卓を購入させていただきました。



円卓



園児用ロッカー

中 高

7月29日に夏休み特別企画として実施した「オーストリアの学生さんと『ヒトラーの生家をめぐると対話』をしてみませんか」の運営費として使わせていただきました。NPO法人ホロコースト教育資料センターの石岡史子さんと、兵役に代わる奉仕活動に就くためにオーストリアから来日されていたトリスタン・ダハさんをゲストに迎えてのワークショップを行いました。ワークショップでは、オーストリアに現存するヒトラーの生家が警察署に作り変えられることになったということを題材として、「歴史」と「記憶」と「私たちの社会」について考えました。



小 学 校



研磨器具（ドレッサー）

写真左側の細目を購入しました。これまでであった中目・荒目とあわせて使うことで、木の形を思うように加工しやすくなりました。



電動糸鋸2台

従来のものよりも、刃の交換が楽になり、児童でも楽にできるようになりました。



冷水器の設置

冷水器は、西校舎1・2階に1台ずつ設置しました。西校舎建設からそのまま設置されていた冷水器で、中には東校舎の冷水器に飲みに行く児童もいましたが、やっと新調できました。西校舎の1・2階にクラスがある2・3年生の児童からは、「前よりも水が冷たくなった」「おいしくなった」と好評です。



ハンドボール部 応援グッズ作製

大会の応援用にハンドボール部オリジナルハリセンを作成しました。



ありがとう
ございました！

松ぼっくり基金 寄付者芳名録

* 一般 寄 付 *

500,000円 飯田 文子 様
飯田 義章 様
200,000円 レミア 美花 様
100,000円 大津 文章 様
株式会社 I2 様
小林 春代 様
長谷川 広美 様
日永田 一憲 様
50,000円 柴山 香奈 様
関野 居直 様
久原 奈穂 様
40,000円 原 泉 様
30,000円 川 伸哉 様
岸川 沙耶花 様
小野 尻賢 様
上澤 功功 様
15,000円 小 倉 啓延 様
10,000円 小 林 了 様
小 善 大和 様
野村 直真 様
橋本 真泰 様
宮本 明 様
5,000円 青 木 彦雄 様
伊 部 神 様
大 熊 淳 様
武 森 正 有 様

* 学園高校生の海外留学支援 *

10,000円 株式会社BioAid/
石井会計事務所様
清水 孝一 様

* 学園中高生の部活動支援 *

500,000円 飯田 文子 様
100,000円 株式会社平賀工業様
野間 健一 様

50,000円 後藤 康太 様
40,000円 株式会社BioAid/
石井会計事務所様

30,000円 荒井 理史 様
20,000円 上澤 功 様
森 若子 様

15,000円 小 倉 啓延 様
10,000円 後 久 佳 洋 様
原 泉 様

5,000円 大 嶋 容市 様
濱田 智広 様
宮 富 伸 夫 様

* 学園小学校の教育環境支援 *

300,000円 小 野 卓也 様
200,000円 小 貴 建一郎 様

120,000円 志 賀 勇太 様

60,000円 原 嶋 崇太 様

50,000円 岩 岡 亜理 様

北 村 和美 様

25,000円 李 田 茂 様

10,000円 田 口 裕記 様

野 尻 賢哉 様

5,000円 石 川 洋二郎 様

* 学園幼稚園の教育環境支援 *

240,000円 志 賀 勇太 様

40,000円 株式会社BioAid/
石井会計事務所様

30,000円 星 憲 幸 様

10,000円 菅 英昭 様

* 特別教職員採用・教職員研修支援 *

1,000,000円 角 田 賢治 様

50,000円 山 田 彩香 様

25,000円 李 田 茂 様

10,000円 株式会社BioAid/
石井会計事務所様

星 憲 幸 様

5,000円 濱 田 智広 様

* そ の 他 *

150,000円 鳥 澤 拓也 様

50,000円 後 援 会 様

20,000円 同 窓 会 様

4,729円 2023年度高3を
祝う会参加者一同様

* 90周年記念事業 *

100,000円 山 田 麻祐子 様

5,000円 石 川 洋二郎 様

* 用途の指定なし *

50,000円 宮 島 和美 様

30,000円 岩 渕 和信 様

50,000円 宮 島 和美 様

20,000円 田 中 重光 様

10,000円 関 根 吉晃 様

5,000円 平 浩行 様

367円 P T A 様

以上 81件

5,825,096円

使 途	件数	金額
一般寄付金	32	2,195,000
学園高校生の海外留学支援	2	20,000
学園中高生の部活動支援	15	915,000
学園小学校の教育環境支援	10	830,000
学園幼稚園の教育環境支援	4	320,000
特別教職員採用・教職員研修支援	6	1,100,000
その他	4	224,729
90周年記念事業	2	105,000
記入なし	6	115,367
小 計	81	5,825,096
承諾しない	47	1,430,000
合 計	127	7,255,096

..... 学校法人から

●理事会報告

これまでに開催された理事会について
ご報告いたします。

第1回定例理事会	4 / 6
第1回臨時理事会	4 / 25
第1回常任理事会・第2回臨時理事会	5 / 10
第2回定例理事会	5 / 25
第3回臨時理事会	6 / 10
第3回定例理事会	6 / 22
第4回定例理事会	7 / 27
第5回定例理事会	8 / 24
第6回定例理事会	9 / 21
第7回定例理事会	10 / 19
第8回定例理事会	11 / 16
第4回臨時理事会	12 / 5
第9回定例理事会	12 / 21
第10回定例理事会	1 / 25

主要な議題・報告等

- ・ 理事長の選任について
- ・ 副理事長の選任について
- ・ 常務理事の選任について
- ・ 理事職務分掌について
- ・ 2024年度私学事業団による経営相談について
- ・ 2023（令和5）年度事業報告書の確定について
- ・ 2023（令和5）年度決算書の確定について
- ・ 中高アリーナプロジェクター入れ替え工事業者決定について
- ・ 中高テクノ棟ホール全熱交換機フィルター・エレメント交換業者決定について
- ・ 幼稚園ホール音響設備更新工事業者決定について
- ・ 監事の選任について
- ・ 中高センター・アリーナ棟LED工事業者決定について
- ・ 各パートの校納金の改訂について
- ・ 監査法人との契約について
- ・ 中高パンフレット等制作に関わる業者選定について
- ・ 個人情報保護規程の改正について
- ・ 健康情報等の取扱規程の制定について
- ・ 2025年度予算編成方針（案）について
- ・ 湘南食育ラボ収支報告
- ・ 寄附行為改定（案）について
- ・ 幼稚園満3歳児保育の導入に係る幼稚園園則改定について



●評議員会報告

これまでに開催された評議員会について
ご報告いたします。

第1回評議員会	4 / 6
第2回評議員会	5 / 25
第3回評議員会	9 / 21
第4回評議員会	1 / 25



主要な諮問事項等

- ・ 理事の選任について
- ・ 監事の選任について
- ・ 2023（令和5）年度事業報告書について
- ・ 2023（令和5）年度決算書について
- ・ 各パートの校納金の改定について
- ・ 湘南食育ラボ収支報告
- ・ 寄附行為改定（案）について
- ・ 幼稚園満3歳児保育の導入に係る幼稚園園則改定について

..... 学園所有地の売却につきまして

学園では昭和46年に那須ハイランド別荘地内（栃木県那須町）の土地を購入し現在まで保有し続けてまいりました。総面積は四区画で約3968平米となりますが、学園として有効に活用してきた実績がなく、今般売却の意思を学校法人として決定しました。

つきましては、学園関係者の皆様に広くご案内し、有効に活用いただける方に購入いただけることを望んでおります。ご意思のある方は、法人事務局長青木までご連絡を頂きたくお願いいたします。

連絡先は、0466-23-6611（代表番号）です。

..... 事務局からのご連絡

●住所変更のお手続きについて

お引越し等の事由により、ご登録頂いている住所が変更された場合は、誠に恐れ入りますが、住所変更のお手続きをお願い申し上げます。なお住所変更に係る所定の様式は、事務局に準備させて頂いておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

●登下校・登降園時の自家用車送迎禁止について

湘南学園では、園児・児童・生徒の登下校・登降園にあたっては、自家用車での送迎は原則禁止とさせて頂いております。園児・児童・生徒の安全確保はもとより、近隣の住民の方等への安全配慮もご考慮いただき、改めてご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。なお、園児・児童・生徒の病気や怪我等の特別な事情で止むを得ない場合は、必ず事前に学校（園）にご連絡くださいますようお願い申し上げます。